

I-2 明視野・カラー腹腔鏡下胆嚢摘出術と ICG 投与のタイミングに関する検討

筒井信浩^{1,2}, 吉田 昌¹, 中川 光¹, 伊藤栄作¹, 岩瀬亮太¹, 鈴木範彦¹,

今北智則¹, 大平寛典¹, 北島政樹¹, 矢永勝彦², 鈴木 裕¹

¹国際医療福祉大学病院 外科, ²東京慈恵会医科大学 消化器外科

【背景・目的】PINPOINT®(Novadaq, Ontario, Canada)は、フルカラーの蛍光腹腔鏡であり、蛍光を確認しながら同時に手術をできることが長所である。しかしながら、従来の投与方法で腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行すると、肝臓の蛍光が強すぎて蛍光画面を見ながらの手術は困難であった。今回、術中の胆管造影の視点から、術前の至適 ICG 投与時期につき検討した。

【方法】対象は 2014 年 9 月～2016 年 8 月に胆嚢結石症、胆のうポリープに対して腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した 72 名の患者。手術直前、3 時間前、6 時間前、9 時間前、12 時間前、15 時間前、18 時間前、24 時間前に ICG を投与した。

評価項目は肝臓と胆嚢のコントラスト、肝臓と胆嚢管のコントラスト、総胆管と肝臓のコントラスト、肝臓と胆管の視認度とした。コントラストは肝臓、胆嚢、胆嚢管、総胆管の輝度を計測し、胆嚢/肝臓、胆嚢管/肝臓、総胆管/肝臓の輝度比で比較した。肝臓と胆管の視認度は、A,B,C の 3 段階で評価した。

【結果】胆嚢/肝臓、胆嚢管/肝臓、総胆管/肝臓の輝度比は 15、18、24 時間前投与で 1 を超えた。視認度では A 評価の割合は、15 時間前以降でピークに達した。

【結語】PINPOINT®を使用した腹腔鏡下胆嚢摘出術では、術前の至適な ICG 投与時期は、手術 15 時間前以降と考えられた。